

第 21 回九州支部主任者研修会・見学会報告

○齋藤希¹⁾，上村実也²⁾

¹⁾ 生命資源研究・支援センター，²⁾ 企画運営室

1. はじめに

放射線安全管理に係る情報収集及び放射線取扱事業所の方々との交流を目的として研修に参加した。

日時： 平成 27 年 12 月 11 日

場所： 長崎大学坂本地区キャンパス 1 先導生命科学研究支援センター（長崎県長崎市）

2. 研修内容・考察

(1) 放射線取扱主任者の役割について

原子力規制庁から、放射線規制における放射線取扱主任者の役割について講義があった。法令の理解、作成時の背景を考慮したマニュアルの改訂等、放射線取扱主任者の資質向上について指摘があった。その他、アイソトープ施設だけでなく、国際規制物資や X 線装置等、規制が必要な分野の安全管理を一元化し、放射線取扱主任者が率先して取り組むことの重要性について述べられた。

現在、アイソトープ施設の安全管理担当だけではなく、国際規制物資の安全管理に関する業務も担当し始めた。今後、大学における安全管理の一元化について、文部科学省から推奨されることが考えられるため、安全衛生、医療安全及び放射線安全管理等、学内の安全管理体制すべてに精通し、関係教職員との連携を図れる放射線取扱主任者をめざす。

(2) 次世代主任者育成について

現行の放射線取扱主任者制度及び放射線障害防止法の問題点や、放射線事故がなくなる問題点について討論があった。

これを受けて、放射線事故を失くすための独自の取組みとして、放射線取扱に係る教育訓練に、学生の身近に潜む事故事例を新たに取り入れた。また、今後、黒髪地区 RI 施設の利用前に提出してもらう使用申請書上の実験手順を確認し、放射性物質を取り扱う研究室について、特に指導を徹底していく。

3. まとめ

本研修では、これまで出席した研修で交流を深めた教職員の方々との交流をさらに深めることができた。その他に、放射線設備を取り扱う業者や原子力規制庁の職員と情報交換する場をいただき、とても実りのある研修になった。

部会を主催して下さった公益社団法人日本アイソトープ協会放射線安全取扱部会九州支部の皆様、ご参加の皆様及びこの有意義な研修の機会を与えて下さった谷施設長他関係者に、この場をお借りして御礼申し上げます。